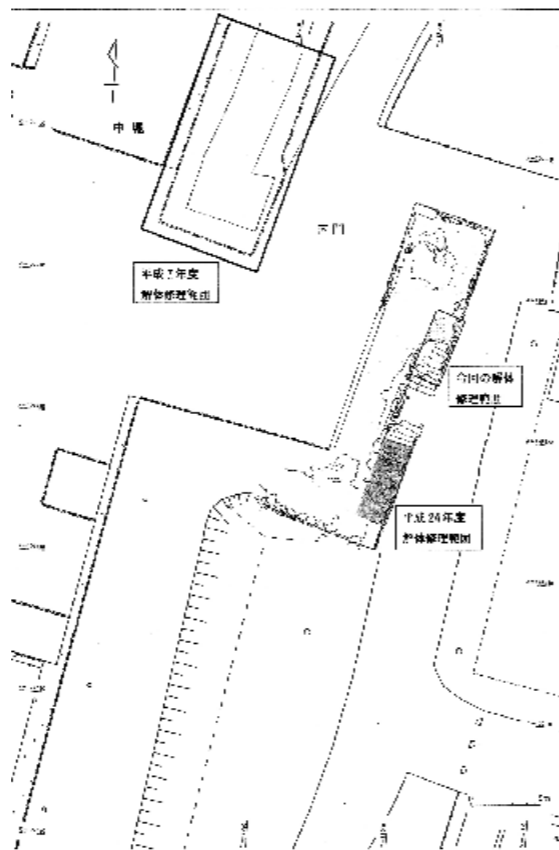


車門跡石垣の修理工事

1 姫路城くるまもん車門跡石垣の概要

姫路市では令和元年（2019）度に姫路城車門跡石垣の保存修理工事を行いました。車門は、上・中級武士の屋敷が並んでいた中曲輪（なかぐるわ）から西側の城外へ出るため、中堀に設けられました。門を出て西側を流れる船場川に架かる橋を渡ると、岡山方面へ通じる西国街道へ続く主要な出入口です。そのため、外門・中門・内門と船場川へおける水門（すいもん）の4つの門で構成され、嚴重な枡形構造をしていました。

姫路城の石垣は、築かれた時代別にⅠ～Ⅴ期に分類されます。16世紀末頃に羽柴秀吉が築いたのがⅠ期で、自然石を積み上げた野面積（のづらづみ）、関ヶ原合戦後に城主となった池田輝政により慶長6年（1601）頃から築かれたのがⅡ期で、矢と呼ばれる楔で割った石を積んだ打込みハギです。Ⅲ期は元和4年（1618）頃に本多忠政が西の丸を中心に改修したもので、Ⅱ期と同じく打込みハギです。Ⅳ期はそれ以後の江戸時代の修理、Ⅴ期は明治時代以降の修理で積まれたものです。車門石垣は凝灰岩（ぎょうかいがん）を主に使用した打込みハギで、Ⅱ期かⅢ期のものとみられます。



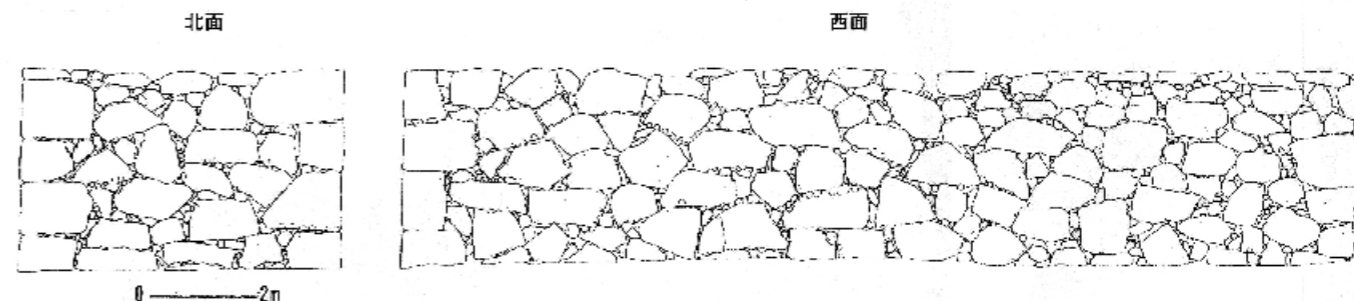
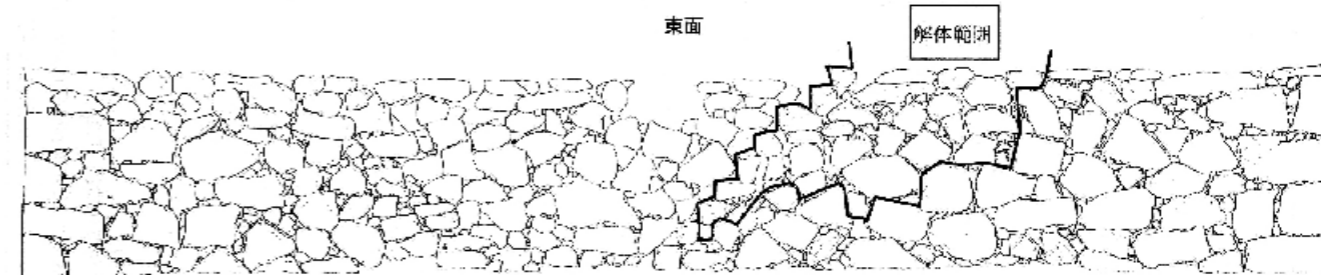
2 保存修理工事の概要

今回の保存修理工事は、車門の内門東側について、石垣に孕みが生じた個所を解体して積み直し、そのほかは、石垣の隙間に詰める間詰石（まづめいし）について、抜け落ちた石の補充を行っています。

- ・工事期間 令和2年1月27日～3月17日
- ・工事面積 解体修理 立面積 8㎡、間詰石補充修理82㎡

3 工事に伴う調査成果

- ・刻印 石階段の脇で1個、解体した石材の側面に2個の記号を刻んだ刻印が発見されました。姫路城跡において刻印はこれまで約50種90個余りが確認されています。今回見つかったのは、円の中に点が3つ打たれたものと正方形と長方形が並



んだものです。円形のは姫路城内で6個確認されているほか、鬢櫛山（びんぐしやま）や増位山（ますいやま）の採石場でも発見されており、石材集めに関係して刻まれた可能性があります。四角の刻印も、これまでに城内で20個ほど見つかっています。

- ・石垣裏込めの確認 石垣の解体により、表側に積まれた築石（ちくいし・つきいし）の内側に約50cmの幅で、川原石を充填した裏込め層を設けていました。これは、姫路城の他の石垣でも確認されており、内部の水はけをよくするなどの機能があったと考えられます。また、裏込めの内側は砂質の土を使って盛土していたことがわかりました。



4 おわりに

姫路市では今後も姫路城跡の石垣修理を計画的に続ける予定です。伝統技術に基づく修理により後世に文化財とその技術を伝えていきます。今後とも皆様のご協力をお願いします。